

レザー の 教室

Leather craft
classroom

3

レザートレー









使用する材料



革は2.5mm厚のオイルレザーと裏貼りにピッグスエードを使いました。柔らかい革だと、カタチを保てない場合があるので、ヌメ革のようにコシのある革を使って制作することをおすすめします。糸はポリエステル系を使っています。

それを200cm×150cmの長方形に切ります。裏貼りに使うピッグスエードも同じ大きさに切りましょう（オイルレザーだけ先に切って、貼りあわせてから現物合わせで揃えるように切ってもOK）。

金具はジャンパードット大を使用。頭が8個必要になります。

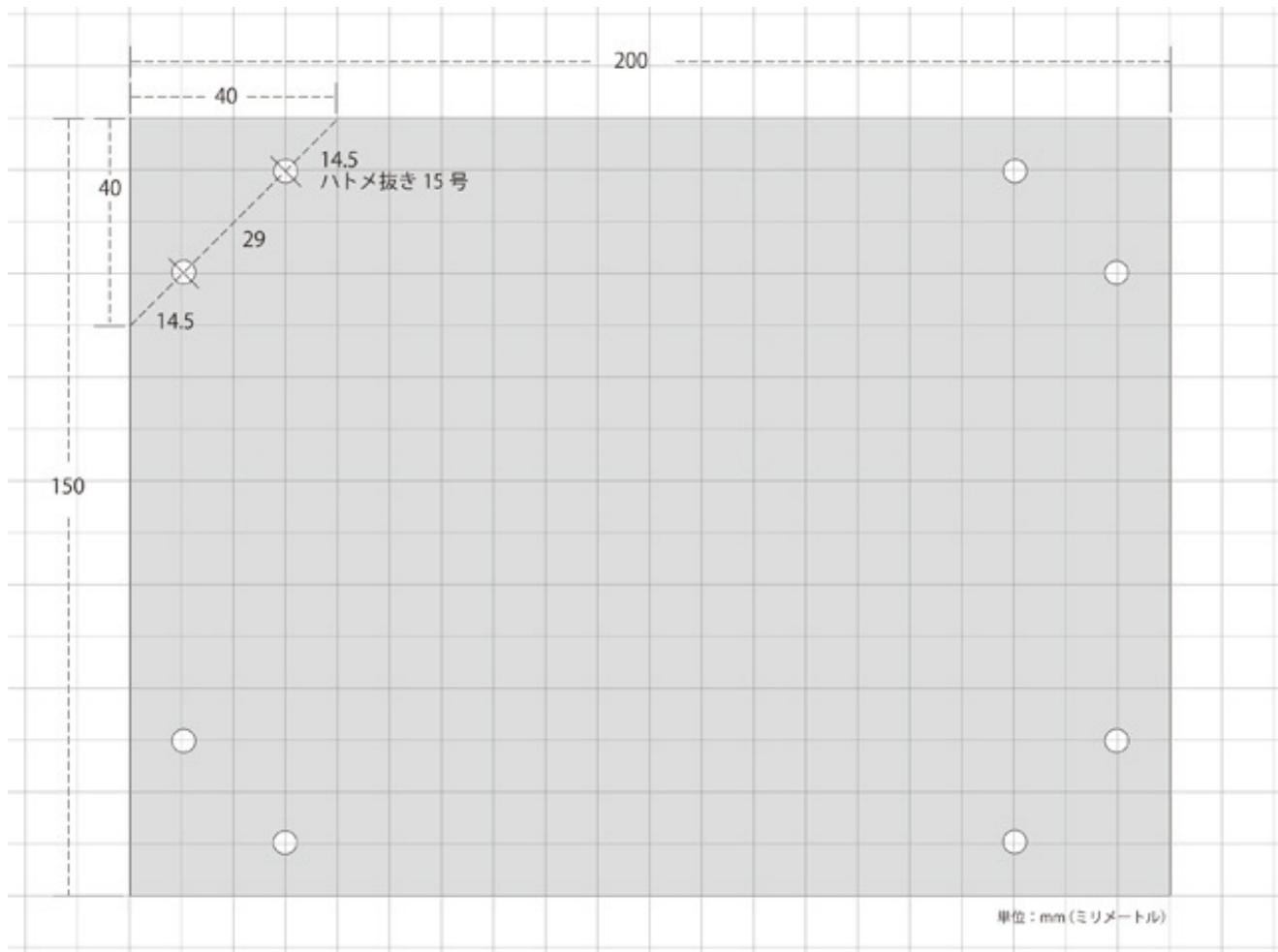
手縫い糸



SEIWA スムース糸 太 ベージュ 1.0mm

毛羽立たず汚れにくい、耐水性・耐久性に優れた手縫い糸です。※糸は何でもOK

型紙



今回使用する型紙です。

手縫い針



糸をつけて縫うときに使います。

菱目打ち4本目、2本目（4mm）



革は厚いため、先に縫い穴をあけてから針を通します。その縫い穴を開けるための道具です。先端は鋭利な菱形をしています。

目打ち



革に目印をつけたり、穴をあけたり、ボンドを少量つける作業に使います。1本あると便利です。

木づち



菱目打ちや金具を留めるときに使います。金づちでも代用できますが、叩くときの音が大きくなります。

カッター



革を切るときに使います。

接着剤（スリーダイン、ゴムのり）



天然ゴム系の接着剤です。革の貼り合わせや、仮留めに使います。接着面が固くならないので、裏貼りなどに適していると言えるでしょう。合成ゴム系のG17やGクリヤーでもOKですが、接着面は天然ゴム系に比べてやや固くなります。使い方は、貼り合わせる両面に薄く塗り、べとつきがなくなる程度まで乾いてから貼り合わせます。塗り広げるときに指で行なうと肌が荒れる場合があるので、ヘラ（ジラコヘラ）を用意しましょう。ホームセンターで購入できます。

ヘラ付きへりみがき又はウッドスリッカー



毛羽立った革の端（コバ）を平らに整えるときに使います。

ステッチンググルーバー



縫い線を引くときに使います。革の端から一定の幅を保ちながら線が引けます。先端を付け替えると、縫い線の代わりに表面を削って溝の彫れるものもあります。

ゴム板



菱目打ちで穴あけするときなどに、下に敷いて作業台が傷つくのを防ぎます。また金具をつけるときに、打ち台の下に敷いておくと打音を少しだけ抑えられます。

トコフィニッシュ



トコフィニッシュ（これ以外にも、トコノールやふのりなど、お好みのものでOK）
革の裏側の毛羽立った面を平らに整え、革の切り端（コバ）をなめらかに整えるときに使います（タンニンなめしの革の場合）。

硬化剤（ハードタイプ）



革を固くするときに使います。いくら磨いてもコバの毛羽立ちが抑えられないときは、硬化剤を塗ってから磨くと効果的です。最初から揃える必要はありません。慣れてきたら試してみましょう。

ハトメ抜き



革に穴あけするときに使います。穴の大きさは、0.6mmから30mm程度まであります。金具をつけるときは、金具のサイズに合わせたハトメ抜きが必要です。今回はジャンパードット大（直径15mm）を使うため、15号のハトメ抜きを使います。

ジャンパードット打ち（打ち棒）



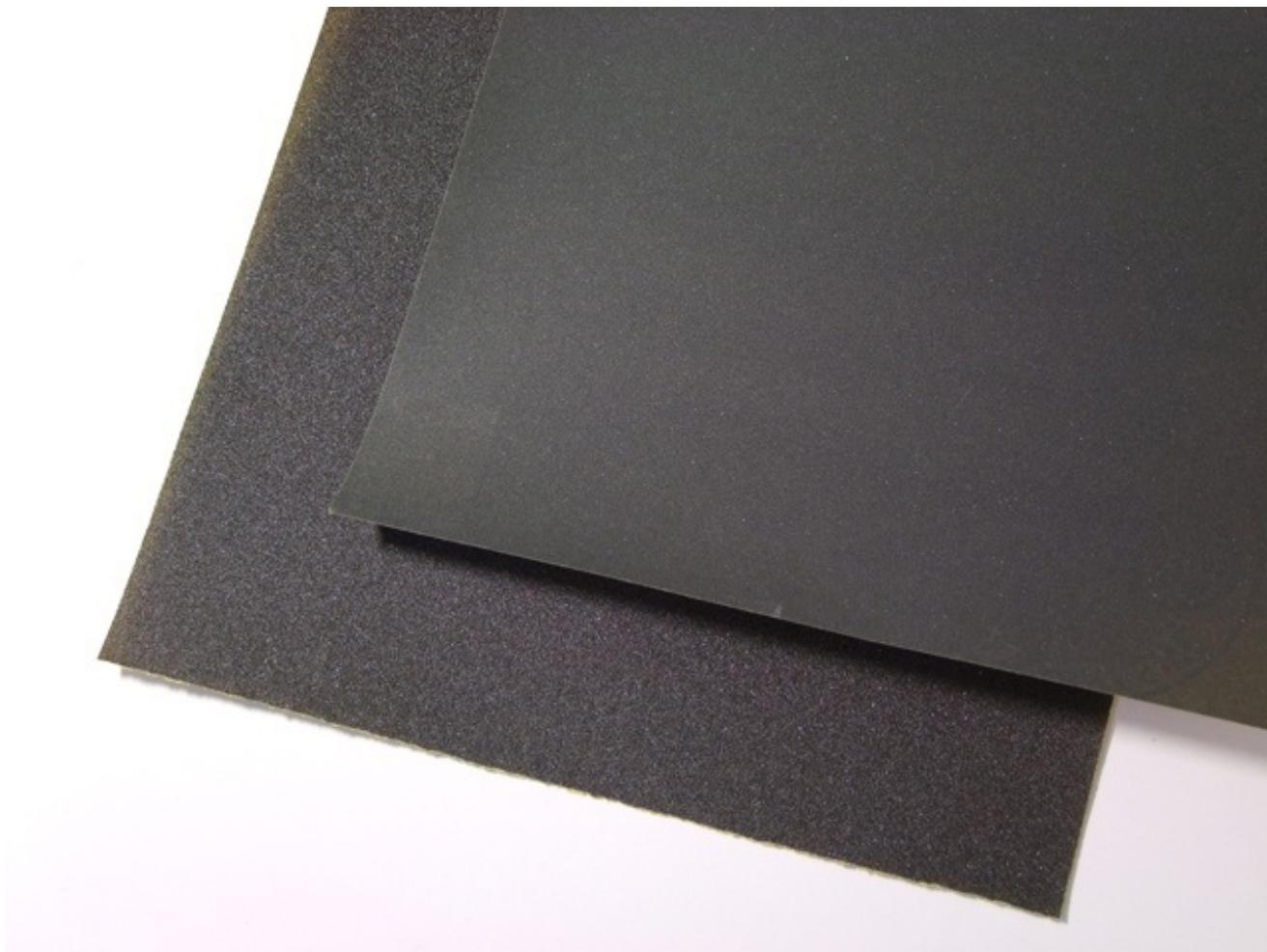
ジャンパードットを留める専用の打ち棒です。

打ち台



金具を留めるときに、この上に金具を乗せてから打って留めます。

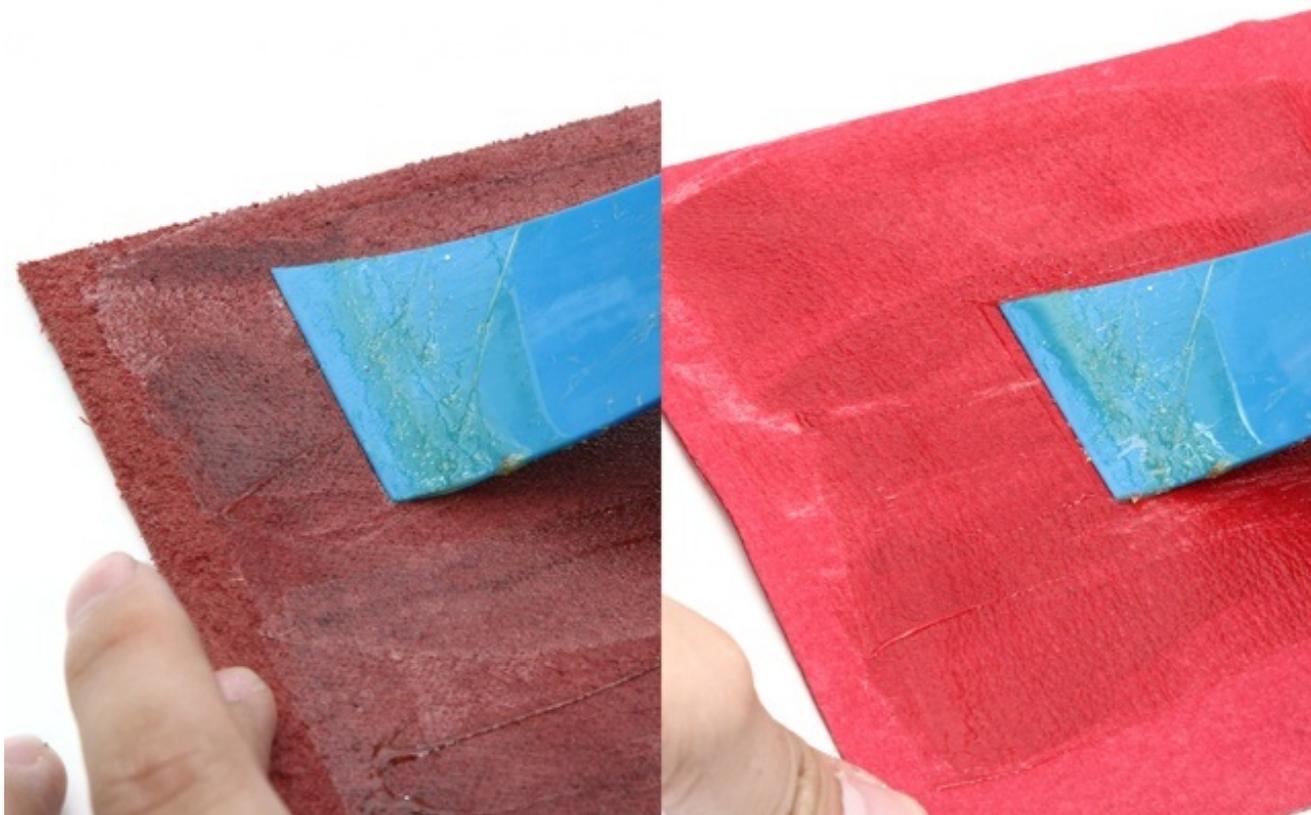
紙ヤスリ



紙ヤスリ 180番、400番あたり

革の端（コバ）を整えるときに使います。革を切り出すときに少々曲ってしまっても、紙ヤスリで整えることで修正できます。紙ヤスリは400番あたりまでで十分で、それ以上の番手は、必須ではありません。

貼り合わせ



革を貼り合わせます。オイルレザーの毛羽立った面とピッグスエードの毛羽立ちのない面にそれぞれフリーダインを薄く塗ります。

手で糊を口付けます。糊を糊の立つた面とシロコヘラ（糊の立つた面のない面）にして糊を糊の立つた面とシロコヘラ（糊の立つた面のない面）で塗り広げます。



接着剤を塗った面に指先で軽く触れ、べとつきがなくなったら貼り合わせます。ずれないようにぴったり合わせて貼りましょう。実際にはずれないように貼り合わせるの難しいので、貼りあわせた後に現物合わせでカタチをあわせてもよいでしょう。



接着した面をしっかり押さえて、圧着します。圧着をしっかりすることで、接着強度が高まります。

縫い合わせる



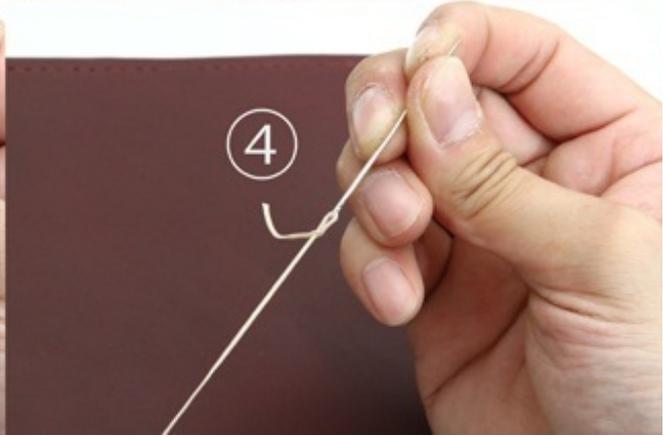
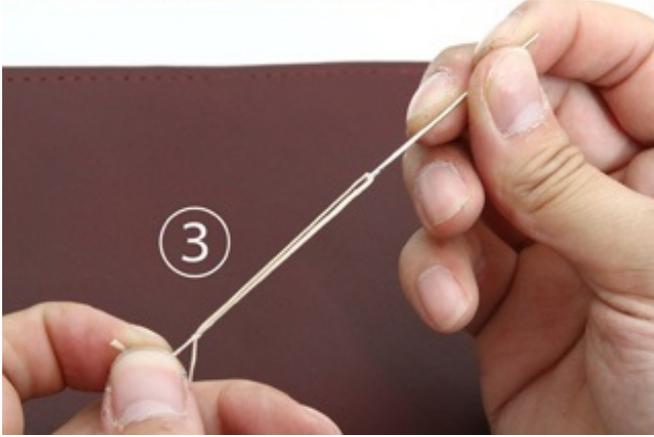
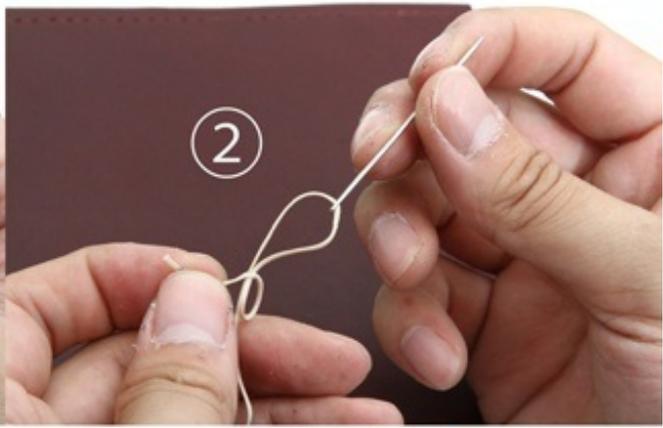
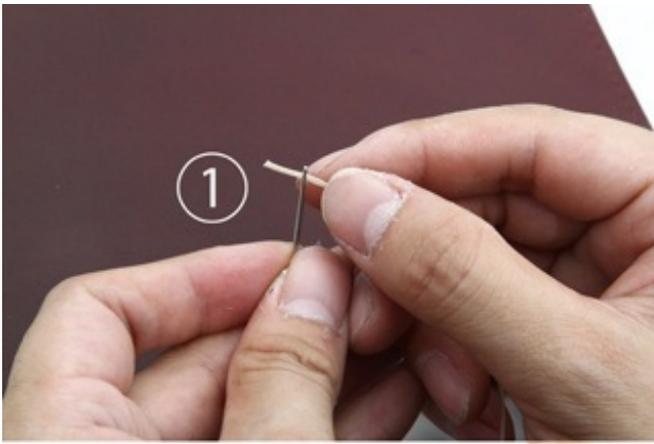
革を裏返し、トレイの外周部分にぐるりと縫い線を引きます。ステッチンググルーバーは、幅を4mmに合わせてから使いましょう。



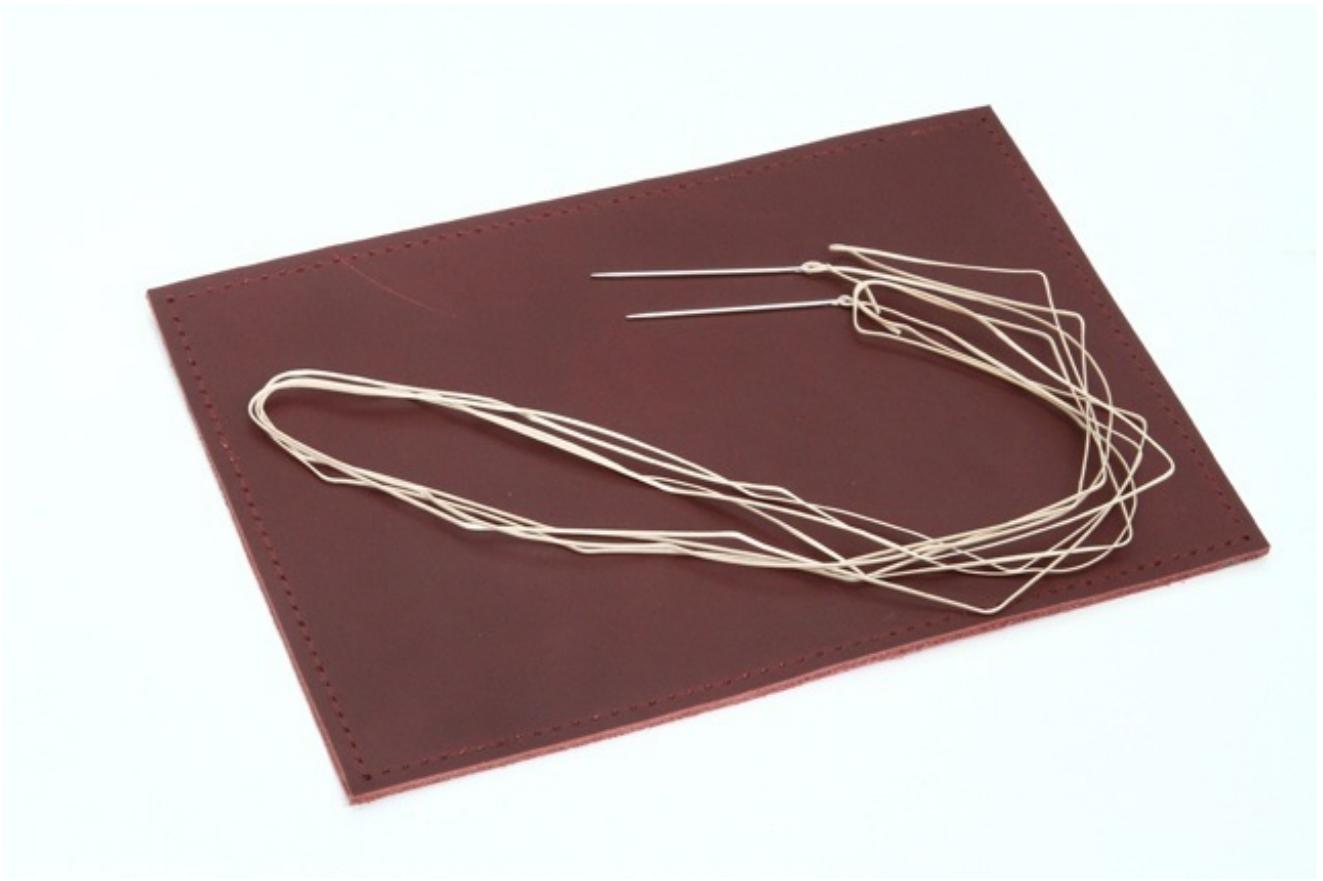
四つ角の部分は、目打ちで穴あけします。菱目打ちで穴あけすると、角の部分2回あけることになり、穴の切れ目が広がってしまいきれいにあけることができません。



先に開けた角の穴からもう一方の角の穴まで、菱目打ちの先端を軽く当てて、穴あけの位置を決めます。穴あけ位置を微調整して、等間隔に穴あけできるように印をつけましょう。印をつけたら、そこからずれないように菱目打ちの先端を当てて穴あけします。菱目打ちは革に対して垂直に立てて使います。



針と糸を準備します。糸は縫う長さの3.5倍～4倍程度で切ります。手縫い針に①糸を通し、②通した方の糸を針に刺して後ろに持って行き、③ピンと引っ張り、④余分な糸を引いて締めます。スムーズ糸は、糸の撚りが戻りにくいので、1回針に刺せばOK。麻糸などを使う場合は、2回～3回程度糸を針に刺す必要があります。



糸の両端に手縫い針をつけたら縫う準備は完了です。



トレイの外周部分を縫い合わせます。

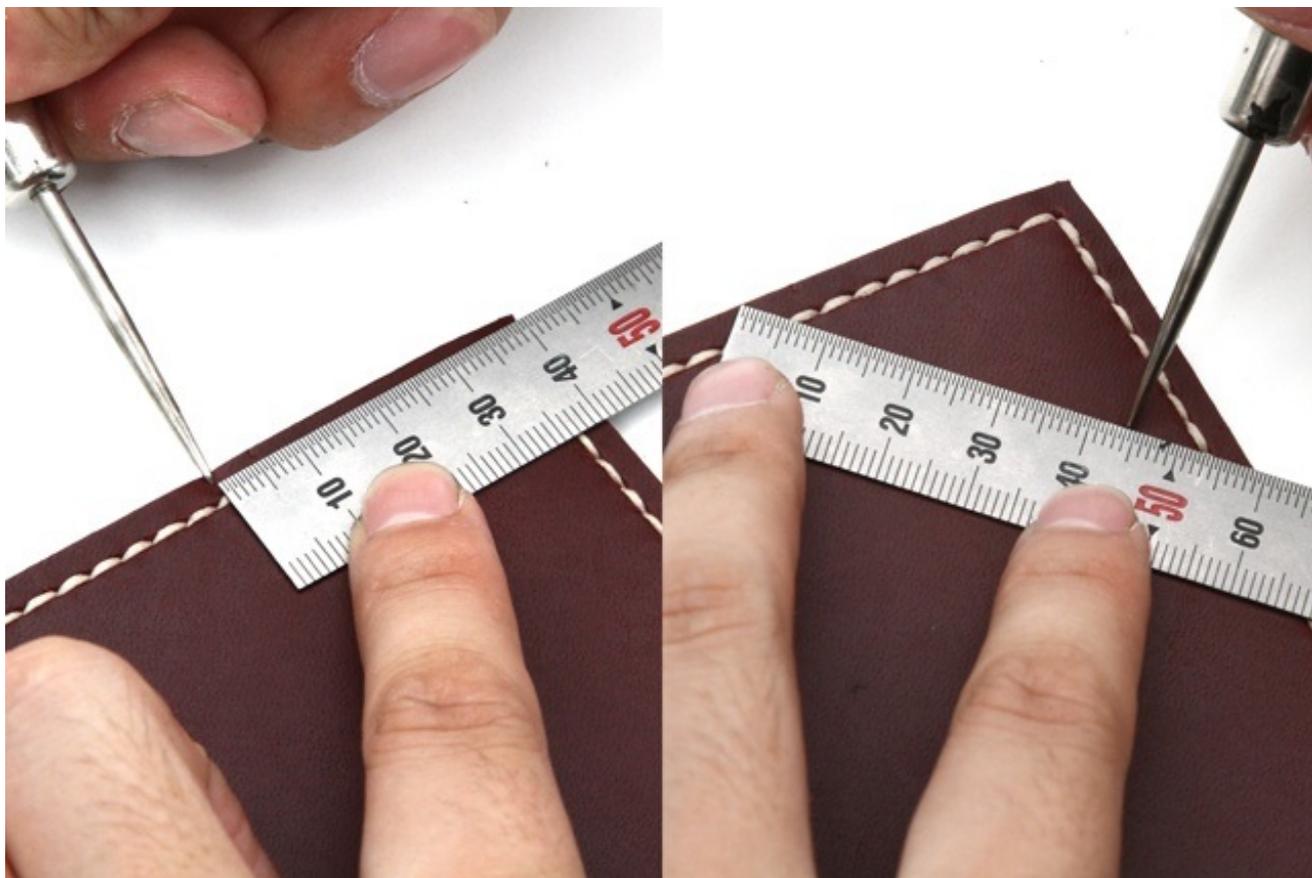


外周部分が縫い終わったら、3mm程度糸を残して糸を切ります。ライターの火で炙って糸を溶かし、ライターの底で潰して留めます。
今回はポリエステル系の「スムーズ糸」を使ったので、ボンド留めではなく、炙って糸を溶かして留めます。革を焦がさないように、火を小さく絞って使いましょう。



ワインレッドのオイルレザーにベージュのスムーズ糸の組み合わせです。

金具をつける



ジャンパードットを留める位置を記します。型紙を参考に、端から長さを測って目打ちで跡をつけましょう。四つ角とも同じ位置で合計8カ所の点を打ちます。



点の位置で穴あけします。ゴム板に革を乗せ、15号のハトメ抜きを使います。



①打ち台にジャンパードットの頭を乗せます。②くぼみにちょうど収まるカタチです。そこに革を乗せ、革からしっかり足が出るようにします。③受けの金具を乗せて、④打ち棒で叩きます。打ち棒は垂直に立てて使い、金具が確実にかしめられるまで強めに叩きましょう。



ジャンパードットの組み合わせに注意しましょう。写真左のように組み合わせて留めます。



ひとつ目の角にジャンパードットがつけられました。同様にして残りの角にもジャンパードットをつけます。



表側はすべて頭を使います。



角につけたジャンパードットを留めることで、トレイのカタチをつくります。

コバを磨いて整える



毛羽立った革の端（コバ）を整えます。①毛羽立ちが収まらないときは、硬化剤を試してみてもよいでしょう（最初は不要）。②紙ヤスリで削り、③トコフィニッシュやトコノールなどで毛羽立ちを抑えます。④ヘラ付きヘリみがき又はウッドスリッカーで毛羽立ちを抑えて、なめらかにします。②～③を3回程度繰り返すと、きれいなコバが得られます。

